

# 関西大学高等部・中等部 2023年度学校評価報告書



2024年3月

# 目 次

1. 本校の概要 .....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 ...	1
3. アンケートの実施状況 .....	12
4. アンケート結果の分析 .....	12
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果 .....	14
6. 校長の意見書 .....	16
7. アンケート結果 .....	17

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010 年 4 月

高槻ミューズキャンパスに関西大学の 3 つめの併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」(学理と実際との調和)の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の 12 年一貫教育を实践。

2014 年～2018 年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール (SGH) として採択される。

その実践をさらに深化させ、国連の提唱する SDGs の活動にも参加。

2019 年～

開校 10 周年を迎え、新たな次の 10 年を見据えた一層の教育の充実に向けて始動。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念「学の実化」(学理と実際との調和、国際的精神の涵養、外国語学習の必要、体育の奨励)に基づき、教育を展開する。また、初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパス内で実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、自ら考え、主体的に行動して責任をもってより良い社会を築くための力「考動力」を有する人材を育成する。

「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」をバランス良く高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有する「高い人間力」を持つ人材を育成し、ユニバーサル(全世界的、万人に通じる、普遍的)な視野を持つ「たくましく」「しなやかな」人材を育成する。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

### (1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上、進路の実現

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 家庭学習の定着と学習の基礎基本の徹底を図る。特に、スローラーナーの学力向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力推移調査の校内分析会を開催し、具体的な対策を検討。</li> </ul>	<p>【取組状況 (Do)】</p> <p>5 月、10 月、3 月、いずれの回も Benesse の本校担当者をお招きし、学力推移調査分析会を実施した。校長、教頭をはじめ中等部所属教員が参加し、資料を基にマクロな視点から成績面と生活面の報告及び分析を行った。</p> <p>成績不振者については、各学年で必要に応じて、放課後の時間を利用して、再テストや課題点検を実施した。また、昼休みや放課後に質問に来た生徒については、それぞれの教科の教</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>各定期考査及び学力推移調査の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。</li> <li>学力向上に関して、生徒アンケート設問 9 の肯定的回答が 75%以上。</li> <li>スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問 16 の肯定的回答が 70%以上。</li> </ul>	<p>員が丁寧に対応した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (△)</p> <p>学力推移調査の分析会は、各学年の教員にとって、その結果を活用して指導を行う動機付けになった。資料にある情報の共有だけで終わってしまうのであれば、分析会は不要であるという意見もあるが、経験が浅く学力推移調査の結果の活用方法がわからない教員にとっては、良い研修の場となった。一方、中等部所属教員が参加する分析会であるため、中等部の授業を担当している高等部所属教員や非常勤講師と情報を共有できていないという課題がある。</p> <p>放課後の再テストや課題点検を実施している学年は、効率よく全体の学力向上を図ることができている。</p> <p>生徒アンケート設問 9「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 81.5%、高等部で 84.4%と目標を達成した。また、同アンケート設問 16「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえらる仕組みがあると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 64.7%、高等部で 70.1%と中等部で目標を達成することができなかった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>年 3 回の学力推移調査分析会の後、各学年でさらに詳細な分析を行い、学習指導の具体的な方向性を共有する必要がある。また、分析会に参加できなかった教員に対して、指導の方向性を共有する場の設定を行ったり、日常的に積極的に情報交換したりすることが必要である。</p> <p>成績不振者へのフォローについては、面談等を通じて個々の課題を認識し、個々に応じた学習計画を作成していく必要がある。さらに、生徒一人ひとりの学力向上と、成績不振者の個別指導については、中等部全体としての対策が必要である。</p> <p>生徒アンケート設問 16 については、昨年度の 60%から 70%へ設定を変更したことで、目標達成することができなかったが、次年度以降も 70%の目標を達成するために引き続き取り組んでいきたい。</p>
<p>イ キャリア教育の充実を図り、ミスマッチの無い進路実現を目指す。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関西大学学部説明会の積極的</li> </ul>	<p>自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>高等部での 3 年間は、関西大学または難関国立大学の進学を前提とした進路指導を行う中で、ミスマッチがおこらないよう、高大連携イベントの情報提供や、オープンキャンパス、学部説明会への参加を促している。高大接続の行事を年間行</p>

<p>な参加を促し、一人あたり2学部以上の参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学の情報提供等に関して、生徒アンケート設問11及び12の肯定的回答が中等部で70%以上、高等部で80%以上。</li> </ul>	<p>事になるべく多く組み込み、生徒たちに関西大学各学部の情報を提供する機会を設けた。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>人間健康学部の教員対象説明会や法学部のクイズ大会、外国語、システム理工、環境都市工、政策創造、社会安全の各連携プログラム、そして各学部の説明会と多くの高大接続行事を実施し、それぞれ約10名～30名の生徒が参加したが、一人あたり2学部以上の参加については、全てを記録できていないものの、概ね達成できた。</p> <p>また、プロジェクト学習においては、個人で研究するテーマについて、進路に結びつけて活動するよう指導することができた。</p> <p>生徒アンケート設問11「人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路を選択ができる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で82.7%、高等部で88.2%、同アンケート設問12「関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で73.2%、高等部で86.9%とそれぞれ目標を達成した。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>高大接続行事については、一人あたり2学部以上の参加をする目標を達成できなかったため、次年度以降は、各学年と進路指導部とが連携し、高大接続の意識を高めて指導していく必要がある。また、プロジェクト学習においても、1年生において、進路を意識したゼミ選択ができれば、より中身のある高大接続となるのではと考える。</p>
<p>ウ 併設校としての使命である関西大学への進学数を増やす。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査や個人懇談、三者懇談を実施し、生徒の志望状況を把握。</li> <li>関西大学への内部進学希望者100名以上。</li> <li>関西大学への内部推薦の合格</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>進路指導においては、併設校としての使命として、関西大学に優秀な生徒を進学させることを意識して行っている。また、進学する学部のみスマッチを無くすため、9月に高等部1年生と2年生には進路希望調査を実施し、3年生には関西大学への進学志望調査を実施した。さらに、7月末、12月末には三者懇談を実施し、生徒の進学志望状況を把握した。</p> <p>また、11月に高等部1年生で、関西大学の各学部に関しての理解を深めることを目的として、千里山キャンパスにおいて、関西大学説明会を実施した。</p>

<p>率 95%以上。</p>	<p><b>【達成状況(Check)】 (◎)</b></p> <p>高等部3年生では、面談を複数回実施し、進路選択のミスマッチがないよう、進路指導部と学年が情報を共有し検討した。このような取組は教員と生徒や保護者との信頼関係にもつながった。このことは、生徒アンケート設問14「定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。」において、1・2の肯定的回答が、中等部で83.1%、高等部で85.9%であることや、保護者アンケート設問16「学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。」において、1・2の肯定的回答が、中等部で76.2%、高等部で81.3%であること、同アンケート設問21「学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。」において、1・2の肯定的回答が、中等部で75.6%、高等部で74.6%であることから確認できる。</p> <p>関西大学への内部進学希望者は111名で、特別推薦・チャレンジ入試で23名、卒業見込者入試で88名が合格し、合格率は100%であった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>この状況を継続し、次年度以降も関西大学へ進学できる生徒が100名を超えるよう、引き続き進路指導部と各学年が連携し、丁寧な進路指導を実施していく。また、関西大学への進学数を増やすだけでなく、学部へのミスマッチをなくし、関西大学や関西大学を卒業してから社会で活躍できる生徒を育成するキャリア教育を構築していく必要がある。</p>
-----------------	---

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 探究学習の深化、充実を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での外部講師の積極的な活用。今年度開講の全20ゼミで外部講師を登用。</li> <li>・中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>高等部3年生による卒業研究発表予選会を5月に実施し、高等部2年生が聴衆者として参加した。また、ここでの優秀発表者による卒業研究発表本選会を6月に実施し、聴衆者として高等部1年生と2年生が参加した。12月には高等部2年生のポスター発表会を実施し、高等部1年生と中等部3年生が聴衆者として参加した。2月には、高等部1年生のポスター発表会を実施した。</p> <p>地域や企業との連携では、高等部1年生で「SDGsフォーラム」や、高等部1年生や2年生でのフィールドワークを実施した。中等部各学年では、ゲストティーチャーによる講演会やフ</p>

「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」での積極的な地域や企業、学校との連携の実施（中高合わせて年間85団体以上）。

- ・外部のコンテストやコンクール参加の促進。

イールドワークを実施した。

中等部の総合的な学習の時間では1年生で「MACHI プロジェクト」2年生で「MIRAI プロジェクト」3年生で「MACHI プロジェクト」を実施し、各学年において考える科の授業を年間通じて計画的に実施した。

#### 【達成状況(Check)】 (◎)

高等部1年生プロジェクト基礎10ゼミ、2年生プロジェクトゼミ10ゼミの合計20ゼミで20名の外部講師による年間6回程度のゼミ指導を実施した。また、中等部の考える科や道徳の時間、総合的な学習の時間及び高等部のプロジェクト学習、その他課外で取り組む探究学習において、約90団体との連携を実施し、目標を達成した。

高等部生を中心に外部のコンテストやコンクール、発表会などの参加を促進した結果、たまゆらフェスタ（たまゆら）、SB Student Ambassadorブロック大会（日本旅行）、循環フェス（京都信用金庫）、未来創造シンポジウム（高槻市青年会議所）、MY PROJECT AWARD（認定NPO法人カタリバ）、東アジア小論文コンテスト（神田外国語大学）、高校生論文コンテスト2023（高崎健康福祉大学）、高校生エッセイコンテスト（JICA）、WWL課題研究発表会（大阪教育大学附属平野）、図書館を使った調べる学習コンクール（図書館振興財団）など多くのイベントに参加することができた。

生徒アンケート設問26「プロジェクトの授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身についていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で84.7%、高等部で91.9%、保護者アンケート設問25「プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われると思われませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で85.7%、高等部で95.5%といずれも高い数値を示している。

#### 【今後の改善方策(Action)】

高等部のプロジェクト学習の外部講師については、引き続き全20ゼミで登用できるよう、関西大学の関係部署や各学部と連携し、調整を進めていきたい。また、中等部、高等部ともに、2025年度の大阪・関西万博参画に向けて、地域や企業等の団体との連携をさらに強化していきたい。

探究学習の深化と充実を図るため、教員の研修を計画し、シラバスの再構築も必要である。

<p>イ ICT機器を活用した先進的教育活動を取り入れる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けに ICT に関する研修を年1回以上開催。</li> <li>ICT 推進委員会において、ICT機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討。</li> <li>ICT 環境の活用に関して、教員アンケート設問17の肯定的回答が80%以上。</li> <li>学校感染症拡大防止のための休校や学年閉鎖、学級閉鎖等に備え、オンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業等の実施の促進。</li> </ul>	自己評価
	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>7月、生徒向けのICT研修を実施した。</p> <p>月に一度、ICT推進委員会を開催し、各教科におけるICTの活用事例を集約するとともに、ICT機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討し、教員向けのICT研修の内容を検討した。</p> <p>中等部2年～高等部2年の英語科で、発音矯正アプリのELSA Speakを導入し、主に家庭学習で活用させた。</p> <p>プログラミングによる自動運転レーシングカーの中高生向けレース大会へ参加した。</p> <p>教員向けのデジタル採点システムを導入することを決定した。</p>
	<p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>生徒向けのICT研修については、生徒会とICT委員会とで検討し、今後のICT活用に非常に大きな関わりがある「AIについて～生成AIとの付き合い方～」をテーマとし、生徒が主体となって実施することができた。</p> <p>教員向けのICT研修は、年3回、職員会議後に実施することができた。</p> <p>教員アンケート設問17「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、86.0%と目標を達成した。また、生徒アンケート設問15「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で90.4%、高等部で90.6%、保護者アンケート設問14「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われるか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で79.8%、高等部で92.5%と、いずれも高い数値を示している。</p> <p>学校感染症拡大防止のための学級閉鎖の際には、Google クラウドルームを通じて、課題配信や動画配信、オンライン授業を実施し、学びを継続させることができた。</p>
<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>ICT機器を活用した教育活動が進められている一方、生成AIなどの普及に伴い、それに対応できるICTリテラシーと、ICTモラルの指導が必要となってくる。</p> <p>学びの継続と深化、または個別最適な学びを実現するため、今後さらなる ICT 環境の整備と教育活動の実践について協議し、実践していく必要がある。</p>	

<p>ウ 国際理解教育の充実を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部、高等部とも海外研修旅行以外の海外との交流活動を積極的に展開する。</li> <li>・海外交流校の増加に向けた取り組みを進める。</li> <li>・国際理解に関して、生徒アンケート設問 25 の肯定的回答が80%以上。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>7月に台湾の国立台湾師範大学附属高級中学高中部・國中部から7名の短期交換留学生を中等部と高等部で、11月にはシンガポールのホワチョンインスティテューションから、8名の短期交換留学生を高等部で受け入れ、3月には5年ぶりに中等部生3名、高等部生4名が台湾へ、高等部生15名がシンガポールへ訪問することができた。</p> <p>8月には4年ぶりに夏期イギリス研修を実施し、高等部26名がコッツウォルズ地方でホームステイを行った。</p> <p>12月に高槻市海外協力グループクスクスを通じて、高槻市在住の外国人の方と交流を行った。</p> <p>今年度から中等部3年生でターム留学を開始し、5名の生徒が1月からニュージーランドでホームステイと現地校での交流を行った。</p> <p>プログラムごとに、国際理解教育部や国際交流委員の活動をまとめ、国際理解教育部通信『Join!』を発行した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>台湾とシンガポールの短期交換留学では、いずれも授業交流や京都エクスカーションなどを通して、留学生たちに日本の生活や文化を体験してもらうことができた。本校の生徒にとっても、相互理解を通して国際感覚やおもてなしの精神を身につけるための活動ができた。</p> <p>海外交流校の増加については、韓国の東灘国際高等学校との短期交換留学実現に向けて、次年度5月に受け入れ、12月に訪問が実施できるよう協議を進めることができた。それに伴い、本校での韓国語講座の開講に向けて準備を進めている。また、ハワイの学校とのオンライン交流等の活動を開始し、次年度5月にハワイからの生徒数名の受け入れを計画している。</p> <p>高槻市の姉妹都市オーストラリアのトゥーンバの学校 Fairholme Collegeとのオンライン交流を予定していたが、都合が合わず実現できなかった。</p> <p>次年度から再開する高等部の海外研修旅行をタイに決定し、現地での活動と、パンヤピワット経営大学附属中高(SATIT PIM)との交流について協議を進めることができた。12月にはタイを視察し、具体的なプログラムを検討することができた。</p> <p>生徒アンケート設問25「国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身についていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で76.5%、</p>
---	--

	<p>高等部で 79.7%と目標は達成できなかった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>中等部、高等部ともに海外との交流活動は活発に実施され、交流校も増加させており、次年度以降も継続して進めていきたい。また、短期交換留学や語学研修などに興味を示す生徒や保護者が増えている一方、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ホームステイの受け入れ家庭が見つげにくくなっており、今後の受け入れ形式の検討が必要である。</p> <p>各国際交流プログラムは充実しているものの、生徒アンケート設問 25 で目標を達成できなかったのは、生徒たちの外国語運用能力に課題があると考えられる。今後は国際理解教育部と外国語科とで協力しながら進めていく必要がある。</p>
--	--

(3) 重点目標③：教職員のさらなる資質向上及び学校経営の健全化

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 授業力の向上を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・協働的、主体的・対話的で深い学びの実現をテーマとした校内研究授業を年 2 回実施。</p>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>各教科が基本方針・目標を設定し、学校教育計画に掲載した。また、各教科で年度末総括を行い、次年度へつなげた。</p> <p>6月と11月に公開授業週間を実施し、その期間に各教科で研究授業を実施した。</p> <p>初等部研究発表会で、中等部から3つの公開授業を行った。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>公開授業週間では、他教科や初等部教員とも連絡し、お互いの授業を見学し、意見を交流することができた。</p> <p>公開授業週間での研究授業では、各教科で担当の教員を選出し、各教科の目標に応じた授業を提案し、実施することができた。</p> <p>初等部の研究発表会では、1年生保健で「ストレスを増大させる“心のクセ”」、2年生で「Making a speech with various expressions」、3年生で「金融商品のリスクとリターン」をテーマとして実践し、思考力を育成するための授業を提案することができた。</p> <p>今年度は、初等部との連携の中で、5年生保護者や6年生保護者への公開授業の際にも、思考力育成を意識した授業を公開することができた。</p> <p>生徒アンケート設問 13「ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で86.6%、</p>

	<p>高等部で 88.8%、保護者アンケート設問 12「主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 70.2%、高等部で 76.9%と高い数値が示されているものの、教員アンケート設問 15「主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、69.8%と、生徒や保護者に比べ、教員が少し低い数値となった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>年 2 回の校内研究授業については、多くの教員に参加してもらい、実践とふりかえりを繰り返すことで授業力の向上に努めていく必要がある。</p> <p>自立した学習者を育成するため、各教科で協働的、主体的、対話的で深い学びが実現できるよう、授業研究を進めていく必要がある。教科ごとに研究授業と研究協議会を開催し、授業力の向上に努めていく必要がある。</p> <p>授業研究のための研修の機会を増やす必要がある。</p>
<p>イ 教員研修の充実を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 研修を年 1 回以上実施。</li> <li>人権研修を年 1 回以上実施。</li> <li>研修体制に関して、教員アンケート設問 32 の肯定的回答が 60%以上。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>ICT研修を職員会議後に計画し、実施した。</p> <p>8 月、前期人権研修を「不登校や問題行動の背景を考える」をテーマとし、スクールソーシャルワーカーの佐藤まどか様を講師としてお招きして実施した。</p> <p>1 月、探究学習の研修を「探究学習をめぐる動向と意義、実践的特徴と学習成果」をテーマとし、関西大学教育推進部の山田剛史教授を講師としてお招きして実施した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>ICT推進委員が主催したICT研修は、主にGoogleクラスルームの活用について実践事例の紹介を行った。職員会議後の実施であり、興味のある教員が気軽に参加することができた。</p> <p>前期人権研修では、スクールソーシャルワーカーの話聞き、子どもの問題行動に関する背景を学び、生徒や保護者への支援について考える機会となった。なお、後期人権研修については、講師との日程調整ができず、中止となった。</p> <p>探究学習については、メガトレンドや高大接続の動向と探究学習、本校のプロジェクト学習の特徴などについて整理された話を聞き、さらにワークショップで本校のプロジェクト学習の課題と解決策について考える機会となった。</p> <p>教員アンケート設問 32「本校は、教員の資質向上、生徒の</p>

	<p>知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。」及び、設問 33「授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。」では、1・2の肯定的回答が、ともに 62.8%と目標を達成した。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>年内の教員研修は継続して実施し、それぞれその時のニーズに応じたテーマを設定していく必要がある。また、今年度の生徒指導において、生徒対応、保護者対応での課題もあり、今後生徒指導の教員研修を計画し、実施していく必要がある。</p> <p>本校は私学マネジメント協会の会員校であり、年間多数の研修を受けることができる。それぞれの研修について、積極的に教員へ周知し、研修を受ける機会を増やしていく必要がある。</p> <p>本校では、「大阪府における防災教育の手引き」「学校法人関西大学危機管理必携」「高槻ミューズキャンパス地震対応マニュアル」に基づいて、中等部・高等部での地震対応マニュアルを作成した。このマニュアルに沿って防災訓練ができるよう、防災に関する研修も必要である。</p>
<p>ウ 超過勤務時間の削減に向けた業務改善や組織体制の強化を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のマニュアル化の方策を検討。</li> <li>・分業、協業促進の模索。</li> <li>・クラブ活動・同好会の指導における外部指導員の増員。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>教科、校務分掌の業務連携をスムーズに行えるよう、各教科、各部で業務のマニュアル化を推進した。</p> <p>教員の働き方について協議を行い、業務の効率化、超過勤務削減に向けて取り組んだ。毎月、超過勤務の多い教員については校長面談を行い、超過勤務の業務の確認と、超過勤務削減に向けての対策を検討した。</p> <p>クラブ活動・同好会活動の指導における外部指導員の業務委託契約書を作成し、各クラブ・同好会で外部指導員を増員できる体勢にした。</p> <p>クラブ活動・同好会活動の外部指導者の指導の幅を広げることを目的として、教育後援会に支援を依頼した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>業務のマニュアル化については、十分な成果は上げられなかったものの、業務の効率化、超過勤務削減については、丁寧な面談を繰り返し、各教員に意識を持ってもらうことで、一定の改善が見られ、2022年度と比べ時間数で15%削減することができた。</p> <p>クラブ活動・同好会活動の外部指導員については、各クラ</p>

	<p>ブ・同好会で増員を計画し、昨年度より増員はできたものの、計画した増員数まで人材を確保することは難しかった。また、課題となっていた外部指導員の全国大会引率の旅費と宿泊費については、教育後援会に支援してもらえるよう教育後援会のガイドラインを修正し、日本拳法部と水泳部へ支援することができた。また、業務委託契約書の謝礼が相当でない指導員への謝礼についても教育後援会のサポートにより、吹奏楽部と合唱部へ支援することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>引き続き業務のマニュアル化と、校長面談を継続していくことで、更なる業務の改良、精査に努めていきたい。</p> <p>部活動・同好会活動の外部指導員については、今年度以上に増員ができるよう、人材の確保に努めたい。</p>
<p>エ 学校経営の健全化を進める。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問4～7の肯定的回答がそれぞれ 50%以上。</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>職員会議については、事前の校務運営委員会において、丁寧に情報共有を行い、議論を重ねた。さらに、職員会議前に管理職と司会の教員で打ち合わせを行い、なるべく議案をしぼって1時間以内で終わるよう調整した。</p> <p>中等部・高等部の両教頭がなるべく学年の教員と関わり、学習面や生徒指導面の共有を行うよう努めた。</p> <p>定期的に管理職ミーティングを行い、各学年や各部署での課題を共有し、検討して、なるべく早く課題解決の方向性を出せるよう努めた。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (◎)</b></p> <p>教員アンケート設問4「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」では、1・2の肯定的回答が、79.1%と目標を達成した。</p> <p>教員アンケート設問5「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、1・2の肯定的回答が、69.8%と目標を達成した。</p> <p>教員アンケート設問6「管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」では、1・2の肯定的回答が、79.1%と目標を達成した。</p> <p>教員アンケート設問7「教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」では、1・2の肯定的回答が、95.3%と目標を達成した。</p> <p>以上、4つのアンケートについては、2022年度を大きく上回る結果となった。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>次年度以降はさらに世代交代が進んでいき、中堅教員が学校運営をすることになる。ベテラン教員と中堅教員、そして若手教員、また教員だけでなく事務職員も含めて、それぞれの意見を尊重し、信頼関係を築きながら学校運営していけるよう、日頃から上手なコミュニケーションが取れるよう努めたい。</p>
--	---

### 3 アンケートの実施状況

生徒、保護者、教員へそれぞれのアンケート項目を設け、いずれも Google フォームを使用して実施した。生徒は各学年でアンケート回答のための時間を取って実施した。保護者は一斉メールで、教員へは教務システム (Siems) で、アンケート回答の依頼をした。

#### (1) 生徒の評価

1月中旬に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、今年度修正と追加をして、30項目とした。回答率は、2021年度88.2%、2022年度84.8%に対し、今年度は81.6%であった。

#### (2) 保護者の評価

1月中旬に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、今年度修正と追加をして、29項目とした。回答率は、2021年度77.7%、2022年度69.1%に対し、今年度は39.6%であり、回答率が低かったことは、実施期間が短かったことが要因であると考えられる。

#### (3) 教員の評価

1月中旬に中等部と高等部の教諭、常勤講師、特別契約教諭、特任外国語講師に対して実施した。アンケート項目については、今年度修正と追加をして、33項目とした。回答率は、2021年度66.0%、2022年度80.8%に対し、今年度は78.1%であった。

### 4 アンケート結果の分析

アンケートについては、「そう思う」…1、「どちらかと言えばそう思う」…2、「どちらかと言えばそう思わない」…3、「そう思わない」…4の回答について結果を集約した。

#### (1) 生徒アンケートについて

設問8, 13, 15, 20, 26, 28は、今年度追加した設問である。

設問1「学校生活は楽しいと感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で93.0%、高等部で94.1%であり、設問2「この学校に入学して良かったと思いますか。」では、同様に中等部で91.1%、高等部で86.6%と、高い評価となっており、多くの生徒が本校での教育活動に満足していることがわかる。

設問9「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で81.5%、高等部で84.4%、設問10「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。」では、同様に中等部で72.2%、高等部で81.6%、設問14「定

期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。」では、同様に中等部で83.1%、高等部で85.9%と、学習に関する指導については、一定の成果があると考えられる。ただし、設問16「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で64.7%、高等部で70.1%であり、主に中等部において、改善策が必要である。

全体を通して、生徒の安心安全、本校の特色である国際理解教育やプロジェクト学習、生徒主体の行事運営については、概ね高い数値であるものの、学力向上については、引き続き協議し、検討していく必要がある。また、初等部との連携についても、次年度以降活発になるよう進めていきたい。

## (2) 保護者アンケートについて

設問4、25は、今年度追加した設問である。

設問1「お子様は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。」では、1、2の肯定的回答が、中等部で89.3%、高等部で91.0%であり、設問2「保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。」では、同様に中等部で87.5%、高等部で91.8%と、生徒アンケートと同様に高い満足度を得ている。また、設問3「本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。」についても、同様に中等部で94.0%、高等部で90.3%と高い数値を示しており、保護者が本校の教育方針や教育目標に非常に高い関心があることもわかる。

一方、設問15「習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。」では、1、2の肯定的回答が、中等部で51.2%、高等部で58.2%であり、生徒アンケートと同様、本校の課題であり、次年度以降取組を進めていく必要がある。

設問5「ホームページや学年通信を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。」では、1、2の肯定的回答が、中等部で63.1%、高等部で64.2%と、頻繁にホームページを更新しているにも関わらず、高い数値を示さなかった。次年度は保護者にホームページの更新を周知できるよう努めていきたい。

生徒アンケートと同様、生徒の安心安全、国際理解教育やプロジェクト学習、生徒の主体性については、高い数値を示しており、保護者の満足度が高いことがわかる。特に、設問24「国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われませんか。」では、1、2の肯定的回答が、中等部で85.7%、高等部で88.1%、設問25「プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われませんか。」では、同様に中等部で85.7%、高等部で95.5%と非常に高い数値を示しており、保護者の関心や期待度が高いことがわかる。

また、設問8「個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。」では、1、2の肯定的回答が、2022年度は中等部で64.3%、高等部で56.9%であったところ、今年度は中等部で85.7%、高等部で77.6%と大きく数値が上回った。これは、昨年度から今年度にかけて、本校の生徒個人情報に関する管理事項を整理し、保護者へ周知したことで成果が現れたものと考えられる。

### (3) 教員アンケートについて

設問 28 は、今年度追加した設問である。

設問 4「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」では、1、2の肯定的回答が、2022年度 46.5%、今年度 79.1%、設問 5「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、同様に 2022年度 51.2%、今年度 69.8%、設問 6「管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」では、同様に 2022年度 48.9%、今年度 79.1%と、それぞれ昨年度を大きく上回る数値が得られた。今年度、会議の打ち合わせや、教頭と学年との情報共有などを丁寧に行ってきたことの成果であると考えられるが、引き続き丁寧な情報共有を心がけ、教員間の信頼関係の構築に努めていきたい。

設問 13「学力向上のための組織的な取組を行っている。」では、1、2の肯定的回答が、55.8%（昨年度 58.2%）、設問 18「学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。」では、同様に 67.4%（昨年度 67.5%）と低い数値となっており、生徒アンケートや保護者アンケートの結果からみても、昨年度から引き続いて本校の課題であることは間違いない。次年度以降、生徒の学力向上について、議論し取組を進めていく必要がある。

設問 10「事故、事件、災害に対する対策が的確に行われる仕組みになっている。」では1・2の肯定的回答が、65.1%（昨年度 55.8%）であり、今年度作成した「関西大学中等部高等部地震対応マニュアル」を教員へ周知し、研修を通じて、生徒や教職員の身を守る対策を講じていきたい。

設問 32「本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。」では、1、2の肯定的回答が、62.8%（昨年度は設問 31として設定し、39.6%）、設問 33「授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。」では、同様に 62.8%（昨年度は内容等若干異なるが設問 32として設定し、53.5%）と、教員の研修についても充実させる必要がある。次年度は、校内での研修を計画的に実施することと、校外での研修について、教員へ広く周知していくことに努めたい。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### (1) 自己評価の結果を受けて

#### ア 重点目標①：「確かな学力の定着と向上、進路の実現」について

- ・スローラーナーへの対応について、アンケート結果として目標を達成できていないことから、対象生徒へのフォローアップが課題であるのではと感じている。一方、実施された補習の内容については生徒、保護者から好評であったことは評価できる。今後も続けていきたい。
- ・補習を実施したことにより内容を理解できた生徒がいるのであれば、本来の授業の内容や進め方に改善の余地があるのではないかと。
- ・関西大学の各学部の説明会については、学部学科の理解が十分にできていない中で説明会に参加する学部を選択することがキャリアミスマッチに繋がっているのではないかと。特に中等部生には大学のことを理解するのは難しいのではないかと感じるが、年齢に応じた内容を検討し実施していけば良いと考える。
- ・関西大学が提供する学問の幅広さを知ることも重要で、学部学科ではなく、何を研究する

- かというカテゴリが大切だということから、「関大先生チャンネル」というツールを利用し、どの先生がどのような学問を教え、また研究をしているのかを調べてみてはどうか。
- ・大学は理系を希望する学生を求めている。理系を希望する生徒の育成と理系教育の充実に励んでいただきたい。
  - ・教員全体がスローラーナーを中心とした課題を感じており、学校全体のサポートとして、例えば補習を課したり、学力を内部進学合格水準までの数値へ向上させたりするなどの対策を検討していただきたい。また、学力推移調査分析会の実施をどのように活用していくのかも大切である。
  - ・プロジェクト学習と進路を結びつけることについては、高等部はゼミに所属し、設定したテーマによる研究を行っていることから、様々な選抜型入試にて自己アピールができるなど、進路への繋がりには徐々に深くなっていると考えられる。しかしながら、中等部では現時点では地域貢献型で総合的な学習の時間を実施しており、直接的に進路へ結びつけることができるものではないかも知れない。今後は、高等部への接続や、様々な体験を通して、今以上に将来の自分像をイメージすることができるよう、取組内容のブラッシュアップを検討していただきたい。

#### イ 重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践」について

- ・探究学習、ICT教育、国際理解教育とも、アンケート結果については、評価できる。ただ、これらの教育については、成績優秀な特定の生徒が表に出る傾向があるが、全生徒に活躍の場が行き渡るような仕組みづくりをお願いしたい。
- ・国際理解について、英語の力を伸ばすことは必須であるし、今や社会に出るうえで当たり前前の時代となってくる。今後は国際的な能力として通用するためには博士学位・Ph. D.の資格が必要であると考え。そのあたりも盛り込みながら教育していただきたい。
- ・公立中学校では全体のクオリティをアップさせたいと考えており、関西大学高等部中等部の教育内容はとても勉強になる。
- ・ICT関連として、中学校校長会にてデジタル採点システム導入の議論を行った。利便性について確認できたが、思考・判断力などの記述式問題の採点は手作業が必要なのではないかという意見があった。今後、導入にむけて様々な観点から検討を進める必要がある。

#### ウ 重点目標③：「教職員のさらなる資質向上及び学校経営の健全化」について

- ・アンケートの評価が2022年度より向上していることについては、大いに評価できる。
- ・「生徒の思考力を高める授業ができているか」という質問について、生徒・保護者からは高い数値は出ているが、教員の数値は低かった。保護者は学校からのアンケートに対して遠慮がちに回答し、実際の評価はもう少し低い可能性もある。一方、初等部の学校関係者評価委員会でも意見として挙げたが、教員が満足していない、すなわち改善の余地があることを認識していることは重要なことであり、生徒・保護者の方が高く評価されているということは、学校として健全であり、教員の自己評価が厳しめに表れたからではないかという評価もできる。
- ・公立学校では、研修について文部科学省が研修の集積システムをこの4月から導入予定

で、教員個々の研修受講状況を管理職が登録し、また研修の受講状況によっては管理職から研修の受講を推奨しなければならない。免許更新制度が廃止された代わりとして導入されたものだという認識である。

- ・部活動の外部指導員制度について、高槻市ではようやく部活動地域移行の検討委員会が設置されたところである。地域との連携や仕組みづくりが課題であると考えている。
- ・外部指導員への報酬額について、一般的な金額に相当するよう、教育後援会としても協力していきたいと考えている。

## (2) アンケート結果について

- ・保護者のアンケート回答率が低かったことに対しては、期間が短かったこともあるが、問題や不満が多いときは、保護者は反応して回答が多くなるものとも考えられるので、ある意味、学校が健全であると保護者が判断し、回答が少なかったという前向きな評価もできる。
- ・生徒のアンケート結果については、概ねいい内容で回答を得ている。これは生徒たちが満足して学校に来ているのではないか、楽しい学校生活を送れているのではないかと理解している。
- ・教員のアンケート結果について、数値が改善されていることが素晴らしいと感じた。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
上田 誠一	高槻市立中学校校長会 会長、高槻市立城南中学校 校長
橋本 欣也	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
城下 英行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
松村 湖生	関西大学中等部・高等部 校長

## 6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部  
校長 松村 湖生

本年度も、多くの生徒が学校生活を楽しいと感じ、本校に入学して良かったと思っていることが、何よりも喜ばしいことである。また、多くの保護者からも生徒が生き生きと学校生活を送り、本校へ入学させて良かったと評価をいただいております、引き続き学校と家庭との信頼関係のもと教育活動を行っていききたい。

学校関係者評価委員（以下、「委員」という。）からは、重点目標①：「確かな学力の定着と向上、進路の実現」について、スローラーナーへのフォローアップが課題と指摘されながらも、実施した補習内容については、保護者からの感想も含めて、一定の評価を頂いている。このことは、教員アンケートの結果からも本校の課題であることがわかり、次年度以降はスローラーナーへのフォローアップを重点的に取り組んでいかなければならない。一方、本来の授業内容にも改善の余地があり、教員の授業力アップに向けた取組が必要である。また、今年度以上に高大の接続を充実させ、さら

に中大接続のイベントも増やしていくなど、ミスマッチのない進路の実現に向けて、キャリア教育を充実させていきたい。さらに、関西大学から理系希望生徒が求められており、中高共に理系教育の充実にも取り組んでいきたい。

重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践」に対して、委員からは、引き続き探究学習、国際理解教育、ICTを活用した活動について高い評価を頂いた。一方、これらの教育活動を成績優秀な特定の生徒に限らず全ての生徒へ充実させるようご意見を頂いた。次年度以降も、生徒の興味や関心に合わせたテーマを設定し、生徒主体の取組として定着させ、本校の特色として充実させていきたい。国際理解教育については、交流校を増やすなど、海外との交流活動を積極的に展開し、英語運用能力を向上させると共に、海外大学へ進学する生徒のサポート体制も整えていきたい。中等部の探究学習については、様々な分野に興味を持たせ、高等部の活動へと繋ぐことができるよう改善を検討し、高等部では、さらに進路を意識させながらゼミ所属やテーマ設定ができるよう指導体制を整えていきたい。そのためにも、教員研修も充実させる必要がある。

重点目標③：「教職員のさらなる資質向上及び学校経営の健全化」について、委員からアンケートの評価が2022年度より向上していることの評価を得たことは、非常に喜ばしいことである。しかし、協働的、主体的・対話的で深い学びの実現をテーマとした授業づくり、思考力育成をテーマとした授業づくりについては、まだまだ改善の余地があり、次年度以降、教員研修も含めて取り組んでいきたい。また、教員研修の充実についても、免許更新制度が廃止された代替として、教員へ研修の機会を提供できるよう努めていきたい。教員の業務改善について、超過勤務時間を2022年度と比較して15%削減することはできたが、より教職員が働きやすい環境になるよう、部活動の外部指導員の増員も含めて努めていきたい。

また、保護者アンケートの回答率が低かったことについて、委員より学校が健全であるという評価も頂いたが、次年度は回答率を上げてより信憑性の高いアンケート結果を得ることができるよう努めていきたい。

最後に、今年度は会議の運営、教員間の信頼関係、管理職との信頼関係について、大きく改善できたことは、非常に喜ばしいことであるが、引き続き丁寧な学校運営の健全化を心がけ、教育活動の充実へと繋げていきたい。

## 7 アンケート結果

- |        |             |                      |
|--------|-------------|----------------------|
| 2023年度 | 関西大学中等部・高等部 | 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）  |
| 2023年度 | 関西大学中等部・高等部 | 自己点検・評価アンケート結果（保護者用） |
| 2023年度 | 関西大学中等部・高等部 | 自己点検・評価アンケート結果（教員用）  |

2023年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(生徒用)

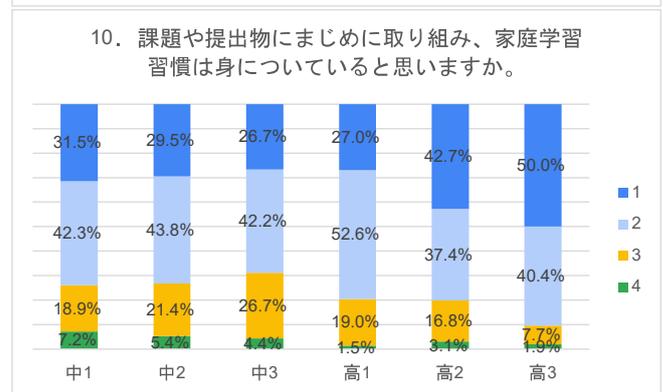
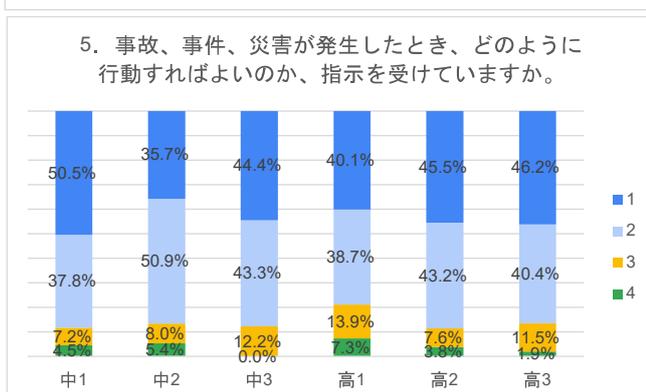
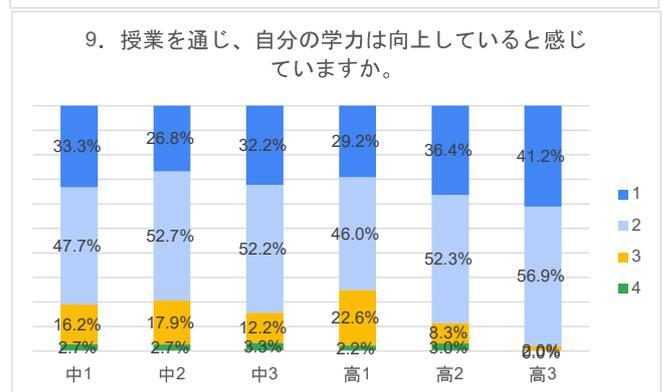
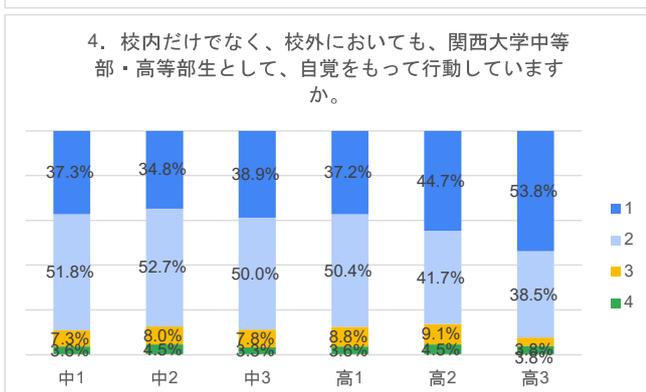
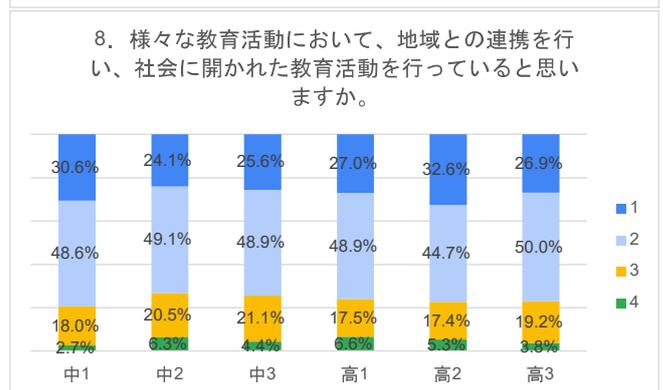
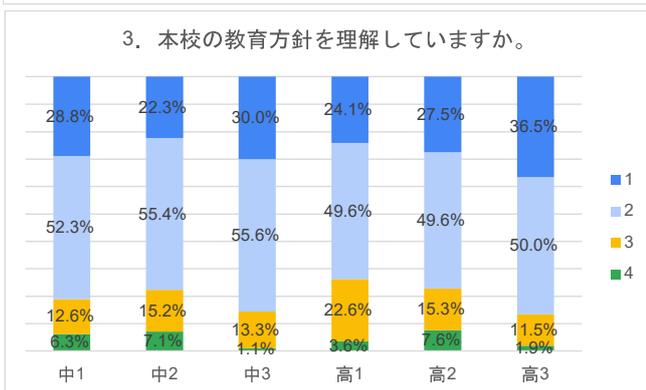
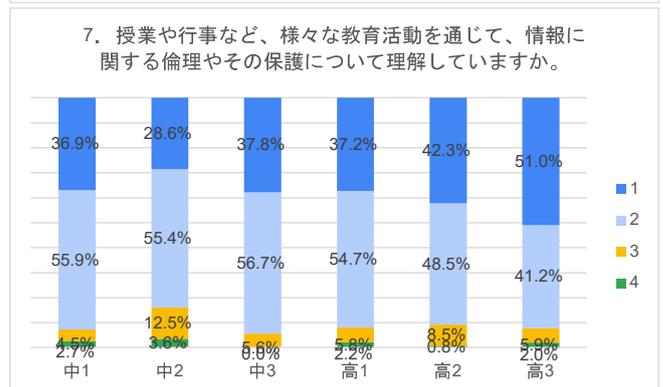
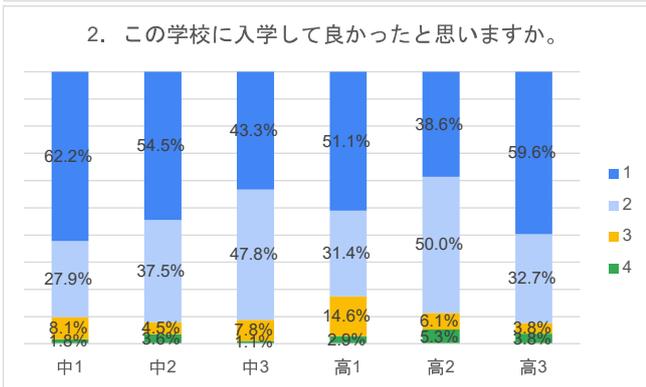
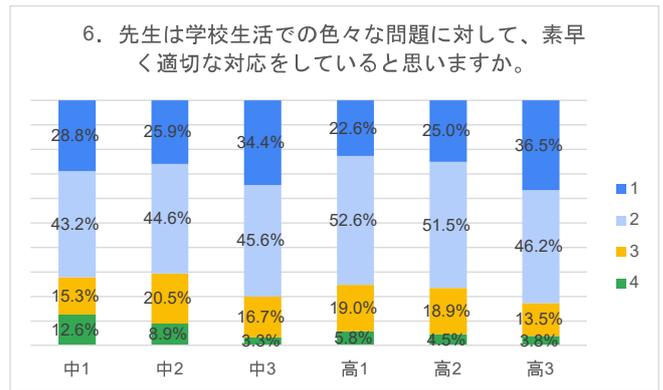
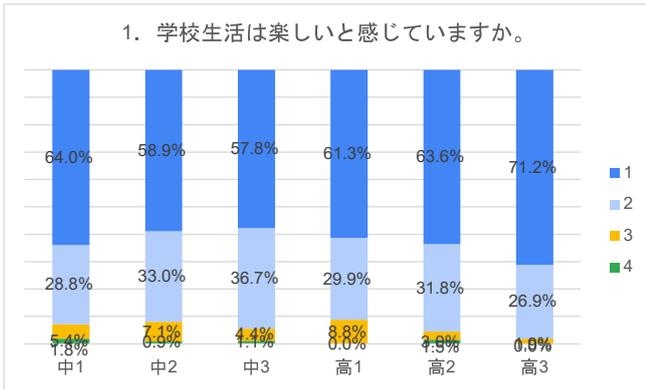
[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	1. 学校生活は楽しいと感じていますか。	60.4%	32.6%	5.8%	1.3%	63.9%	30.2%	5.3%	0.6%
2	2. この学校に入学して良かったと思いますか。	54.0%	37.1%	6.7%	2.2%	47.4%	39.3%	9.3%	4.0%
3	3. 本校の教育方針を理解していますか。	26.8%	54.3%	13.7%	5.1%	27.5%	49.7%	17.8%	5.0%
4	4. 校内だけでなく、校外においても、関西大学中等部・高等部生として、自覚をもって行動していますか。	36.9%	51.6%	7.7%	3.8%	43.0%	44.9%	8.1%	4.0%
5	5. 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	43.5%	44.1%	8.9%	3.5%	43.3%	40.8%	10.9%	5.0%
6	6. 先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	29.4%	44.4%	17.6%	8.6%	25.9%	51.1%	18.1%	5.0%
7	7. 授業や行事など、様々な教育活動を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	34.2%	55.9%	7.7%	2.2%	41.5%	50.0%	6.9%	1.6%
8	8. 様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。	26.8%	48.9%	19.8%	4.5%	29.3%	47.4%	17.8%	5.6%
9	9. 授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	30.7%	50.8%	15.7%	2.9%	34.1%	50.3%	13.4%	2.2%
10	10. 課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	29.4%	42.8%	22.0%	5.8%	37.2%	44.4%	16.3%	2.2%
11	11. 人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路を選択ができる仕組みがあると思いますか。	37.4%	45.4%	12.1%	5.1%	41.7%	46.4%	10.3%	1.6%
12	12. 関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対するの意欲が高まる仕組みがあると思いますか。	29.1%	44.1%	18.2%	8.6%	42.2%	44.7%	9.7%	3.4%
13	13. ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。	32.9%	53.7%	10.9%	2.6%	41.3%	47.5%	9.7%	1.6%
14	14. 定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。	34.5%	48.6%	12.8%	4.2%	37.2%	48.8%	10.6%	3.4%
15	15. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。	56.5%	33.9%	7.0%	2.6%	63.4%	27.2%	7.2%	2.2%
16	16. 成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	21.5%	43.3%	19.2%	16.0%	27.4%	42.7%	19.9%	10.0%
17	17. 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	58.5%	32.6%	6.1%	2.9%	55.3%	36.9%	6.3%	1.6%
18	18. 生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	30.9%	48.9%	14.5%	5.8%	35.4%	46.7%	11.3%	6.6%
19	19. いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	34.8%	39.0%	16.3%	9.9%	41.4%	42.1%	11.5%	5.0%
20	20. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を知り、自主的に社会貢献をする機会があると思いますか。	27.8%	50.2%	16.6%	5.4%	33.0%	47.0%	13.1%	6.9%
21	21. 他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	32.3%	47.9%	13.4%	6.4%	36.5%	51.6%	9.1%	2.8%
22	22. 先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	30.2%	45.3%	15.4%	9.0%	35.2%	46.7%	12.8%	5.3%
23	23. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	39.3%	46.3%	11.2%	3.2%	37.4%	47.4%	11.8%	3.4%
24	24. 各学校行事の意義や目的を理解し、主体的に活動していると思いますか。	40.6%	49.8%	6.4%	3.2%	48.3%	40.5%	7.8%	3.4%
25	25. 国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身につけていると思いますか。	29.6%	46.9%	18.6%	4.8%	32.5%	47.2%	15.0%	5.3%
26	26. プロジェクトの授業(考える科や総合的な学習の時間を含む)を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身につけていると思いますか。	34.2%	50.5%	10.9%	4.5%	47.5%	44.4%	7.2%	0.9%
27	27. 高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか。	30.4%	46.0%	15.0%	8.6%	39.9%	40.2%	12.8%	7.2%
28	28. 初等部との教育連携があると思いますか。	23.0%	37.1%	22.4%	17.6%	13.7%	19.6%	35.2%	31.5%
29	29. 悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	26.8%	43.8%	15.0%	14.4%	30.5%	46.7%	14.0%	8.7%
30	30. 工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	42.5%	37.7%	13.7%	6.1%	30.9%	40.6%	17.5%	10.9%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

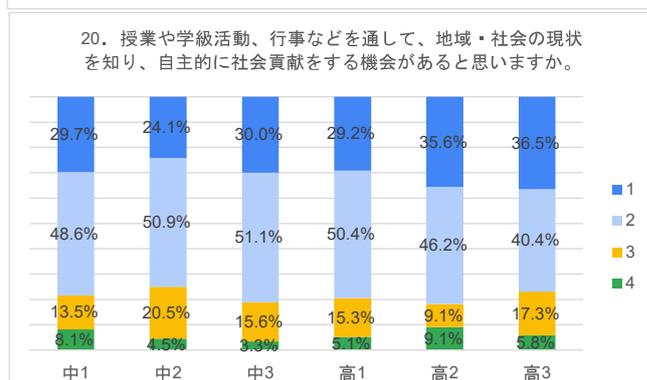
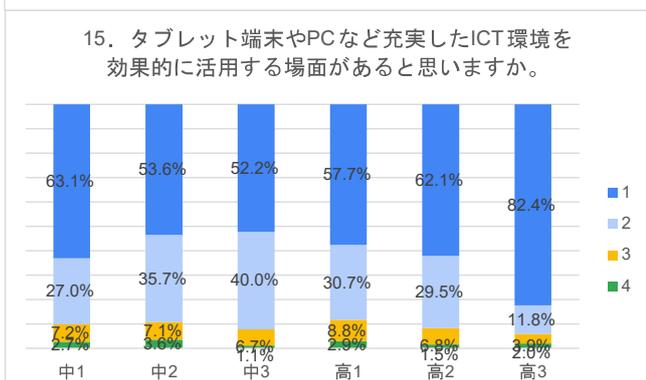
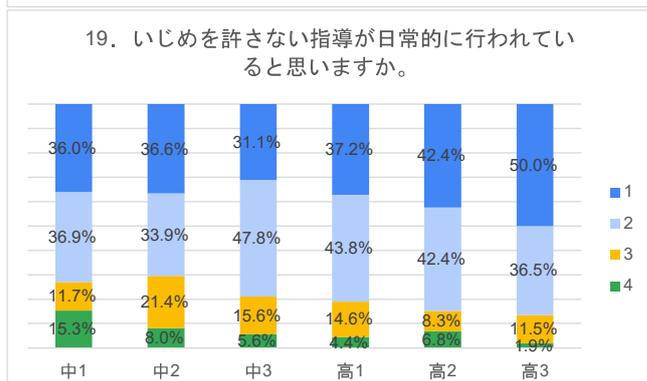
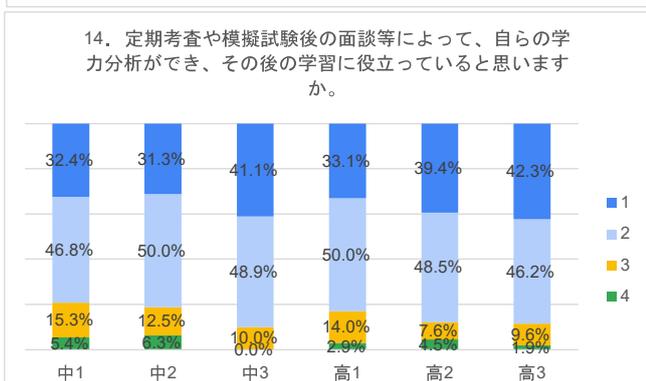
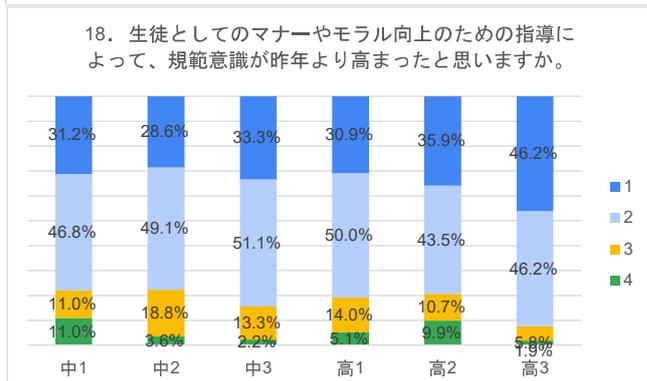
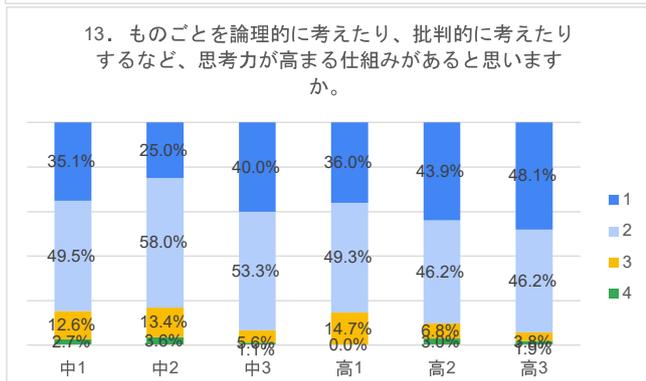
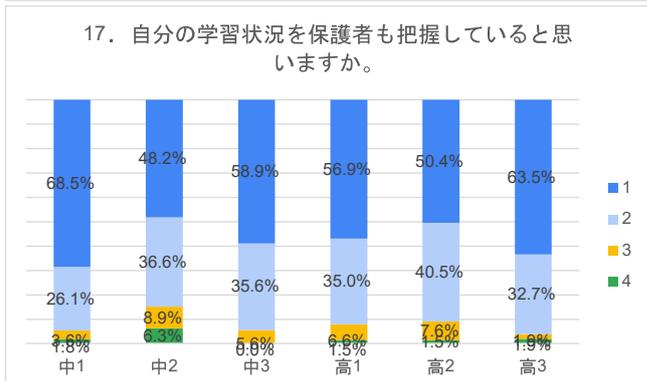
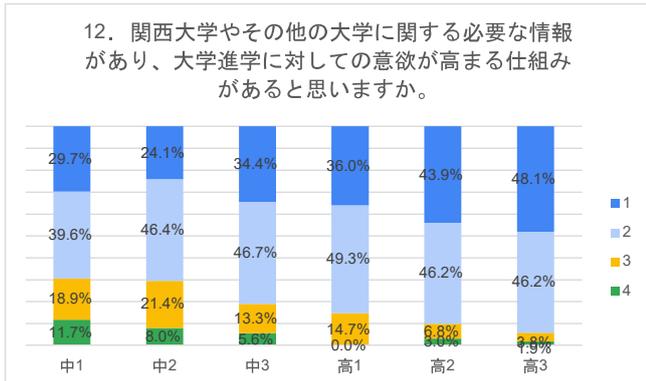
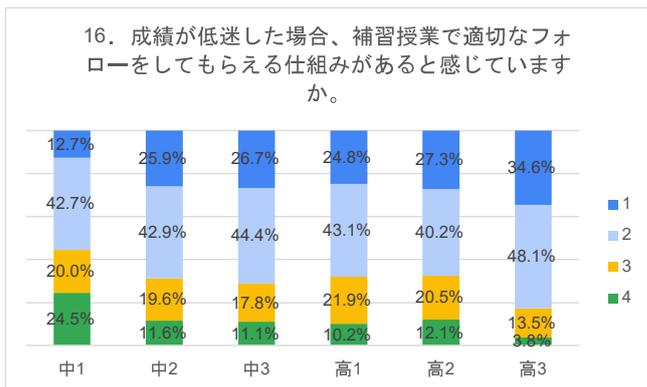
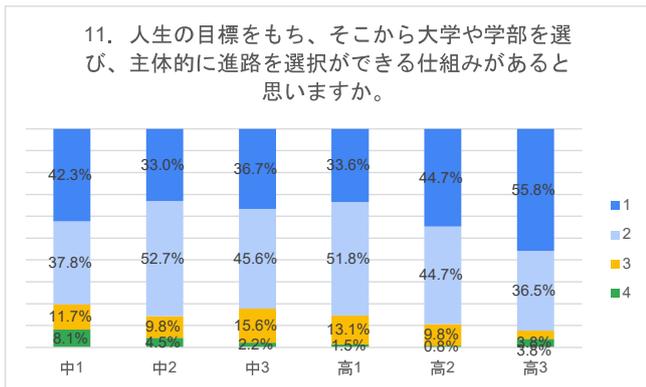
生徒集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



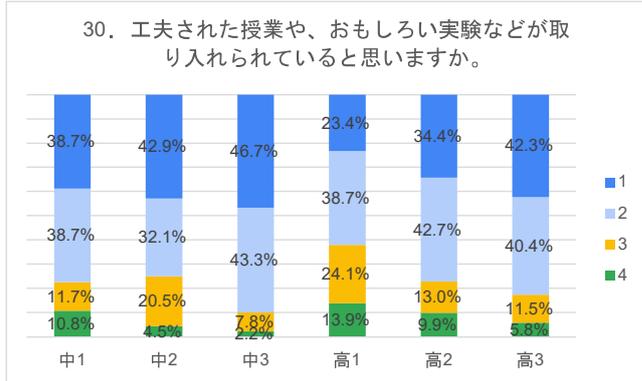
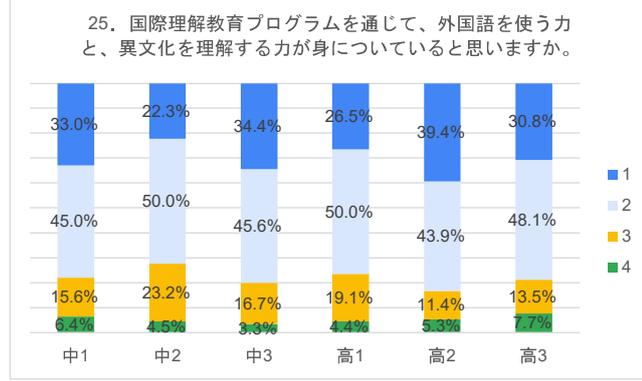
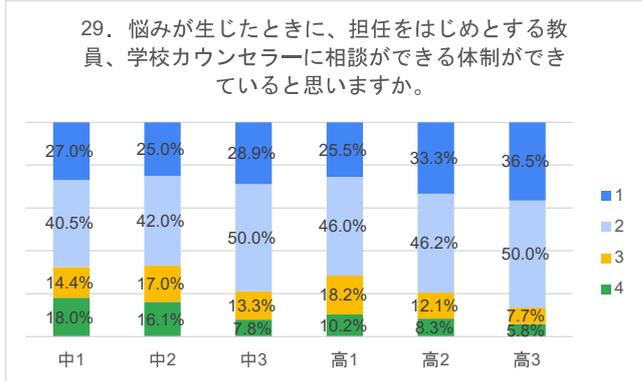
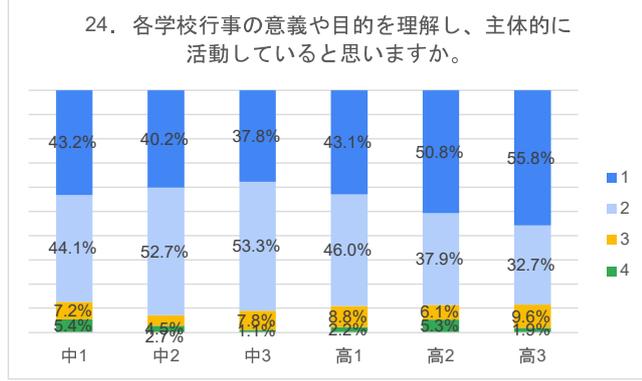
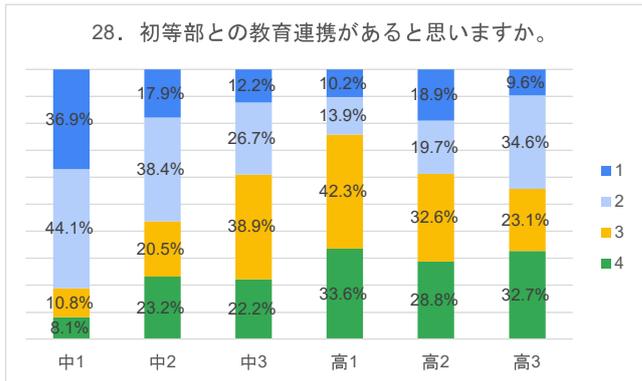
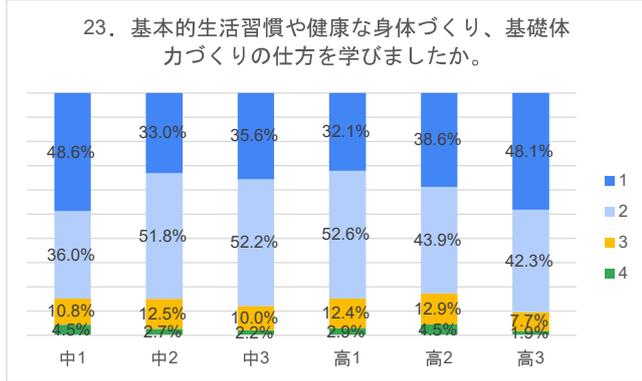
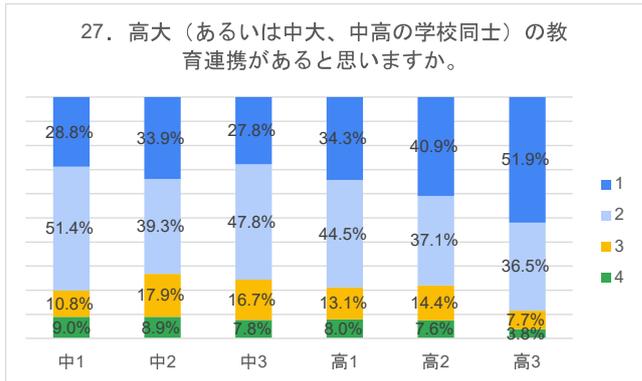
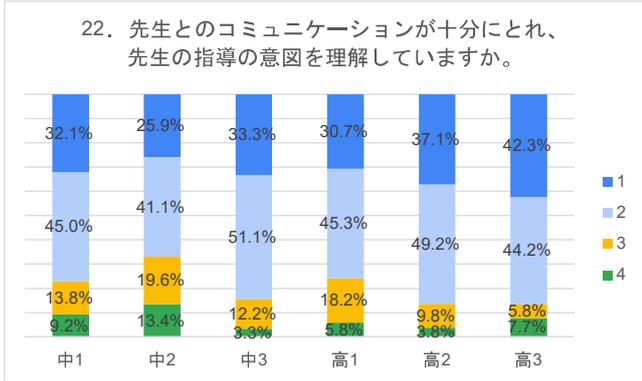
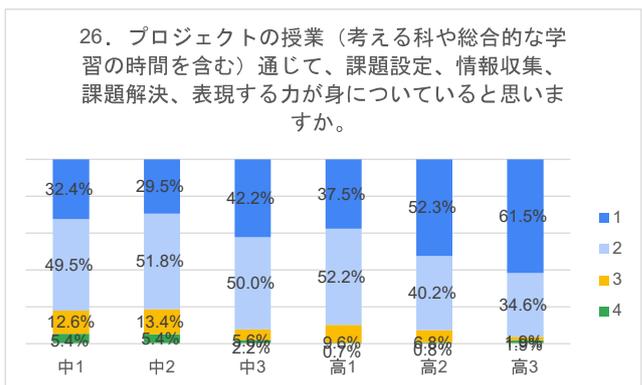
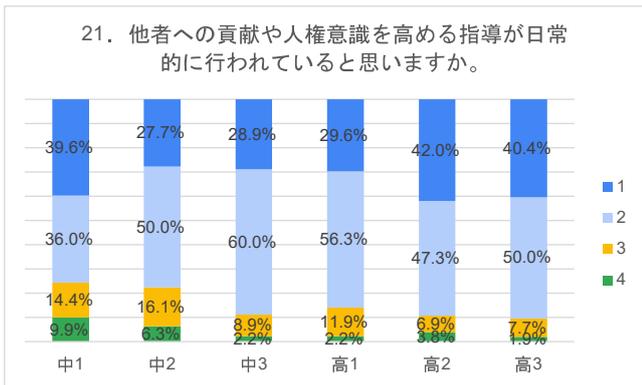
生徒集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



生徒集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



2023年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(保護者用)

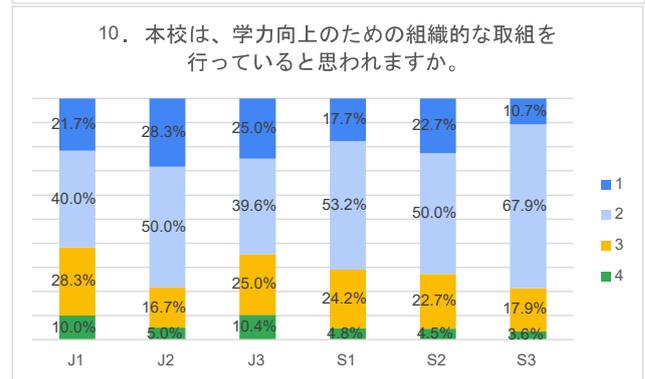
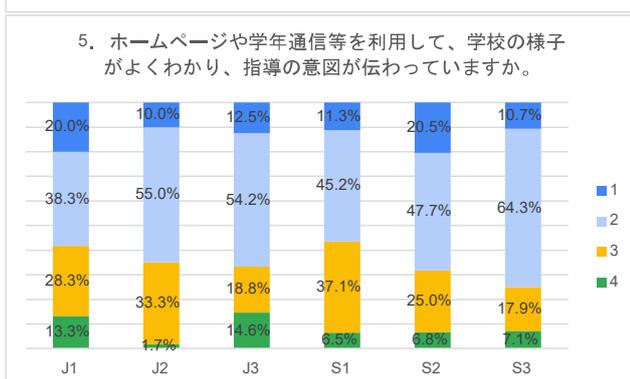
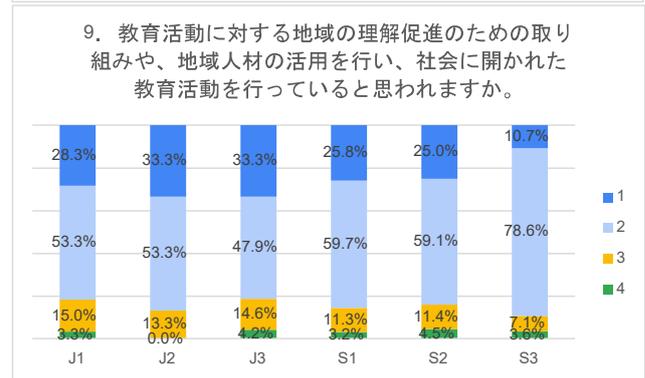
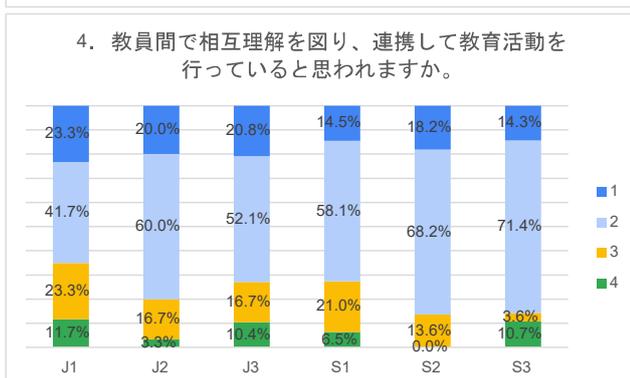
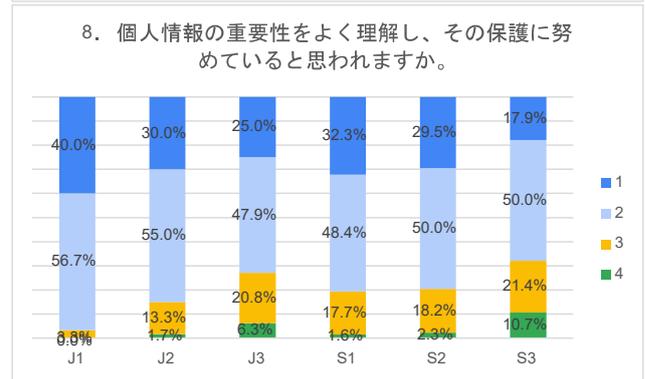
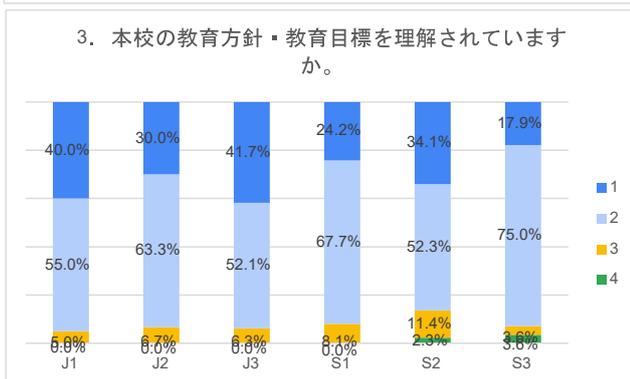
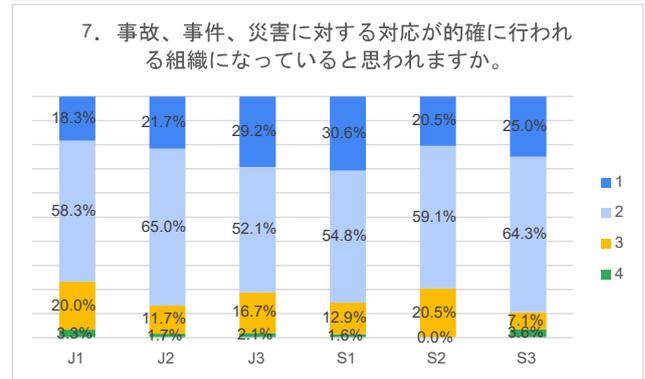
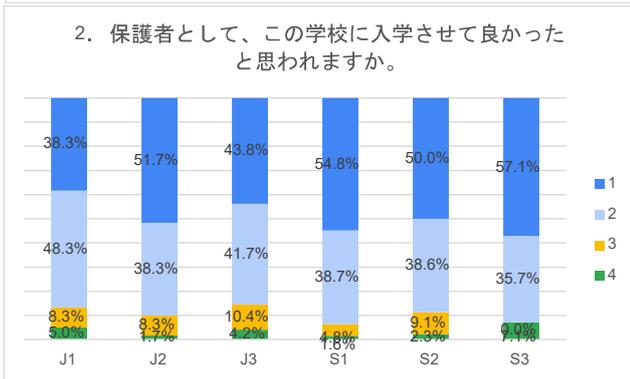
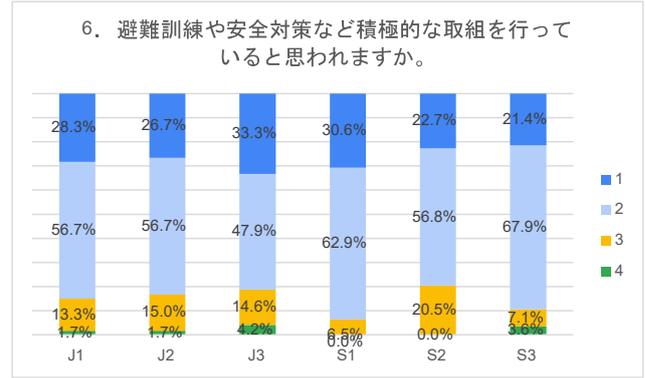
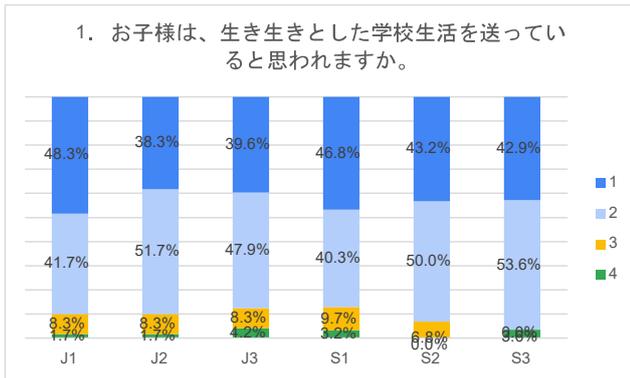
[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	1. お子様は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	42.3%	47.0%	8.3%	2.4%	44.8%	46.3%	6.7%	2.2%
2	2. 保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。	44.6%	42.9%	8.9%	3.6%	53.7%	38.1%	5.2%	3.0%
3	3. 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	36.9%	57.1%	6.0%	0.0%	26.1%	64.2%	8.2%	1.5%
4	4. 教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われませんか。	21.4%	51.2%	19.0%	8.3%	15.7%	64.2%	14.9%	5.2%
5	5. ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	14.3%	48.8%	27.4%	9.5%	14.2%	50.0%	29.1%	6.7%
6	6. 避難訓練や安全対策など積極的な取組を行っていると思われませんか。	29.2%	54.2%	14.3%	2.4%	26.1%	61.9%	11.2%	0.7%
7	7. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われませんか。	22.6%	58.9%	16.1%	2.4%	26.1%	58.2%	14.2%	1.5%
8	8. 個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。	32.1%	53.6%	11.9%	2.4%	28.4%	49.3%	18.7%	3.7%
9	9. 教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われませんか。	31.5%	51.8%	14.3%	2.4%	22.4%	63.4%	10.4%	3.7%
10	10. 本校は、学力向上のための組織的な取組を行っていると思われませんか。	25.0%	43.5%	23.2%	8.3%	17.9%	55.2%	22.4%	4.5%
11	11. 生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われませんか。	20.8%	48.8%	22.6%	7.7%	20.9%	56.7%	17.2%	5.2%
12	12. 主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われませんか。	23.2%	47.0%	21.4%	8.3%	22.4%	54.5%	17.9%	5.2%
13	13. 生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。	31.5%	51.8%	11.9%	4.8%	26.1%	58.2%	12.7%	3.0%
14	14. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われませんか。	40.5%	39.3%	10.7%	9.5%	50.0%	42.5%	5.2%	2.2%
15	15. 習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。	11.9%	39.3%	29.8%	19.0%	12.7%	45.5%	23.1%	18.7%
16	16. 学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。	25.0%	51.2%	19.0%	4.8%	20.1%	61.2%	15.7%	3.0%
17	17. 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。	22.6%	58.9%	15.5%	3.0%	26.9%	63.4%	7.5%	2.2%
18	18. いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われませんか。	28.0%	54.2%	13.1%	4.8%	25.4%	59.7%	11.9%	3.0%
19	19. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われませんか。	26.2%	57.7%	13.1%	3.0%	17.9%	64.2%	15.7%	2.2%
20	20. 授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われませんか。	27.4%	57.1%	13.7%	1.8%	21.6%	65.7%	10.4%	2.2%
21	21. 学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。	25.0%	50.6%	20.2%	4.2%	13.4%	61.2%	20.9%	4.5%
22	22. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。	25.0%	53.0%	17.9%	4.2%	14.9%	62.7%	19.4%	3.0%
23	23. 生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われませんか。	31.5%	52.4%	13.1%	3.0%	30.6%	59.7%	9.0%	0.7%
24	24. 国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われませんか。	30.4%	55.4%	10.7%	3.6%	29.9%	58.2%	9.7%	2.2%
25	25. プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われませんか。	29.8%	56.0%	10.7%	3.6%	38.8%	56.7%	3.0%	1.5%
26	26. 高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。	23.2%	50.6%	16.7%	9.5%	24.6%	56.0%	16.4%	3.0%
27	27. 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。	15.5%	48.2%	23.2%	13.1%	14.2%	56.0%	21.6%	8.2%
28	28. 子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。	23.8%	54.8%	14.9%	6.5%	20.1%	60.4%	16.4%	3.0%
29	29. 本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	23.8%	48.2%	20.8%	7.1%	17.2%	55.2%	20.9%	6.7%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

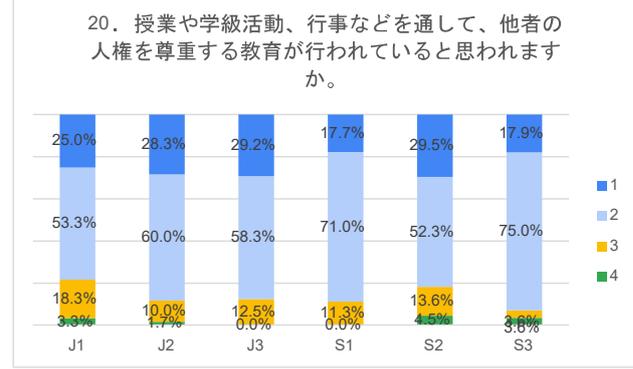
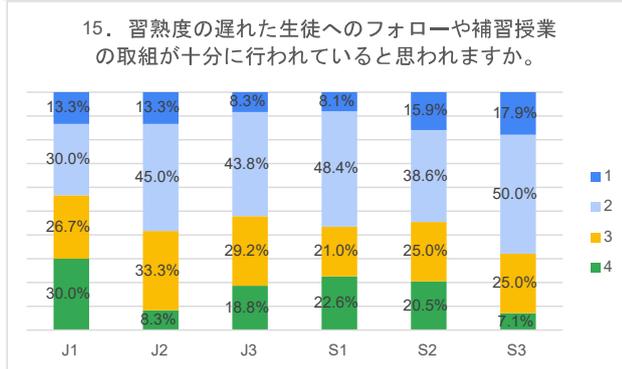
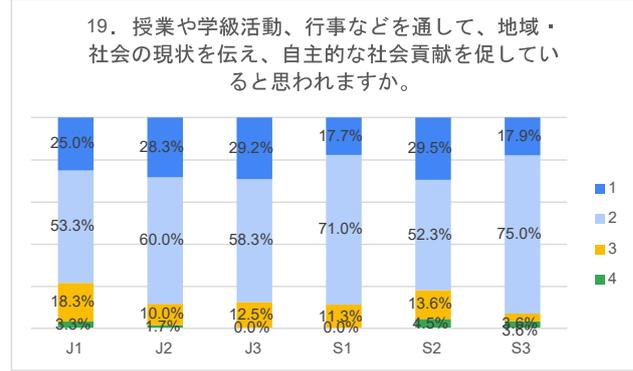
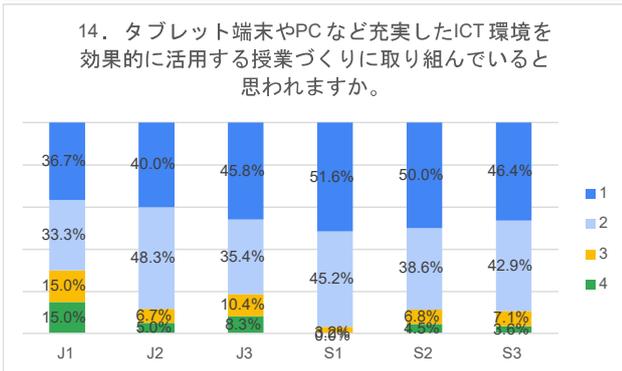
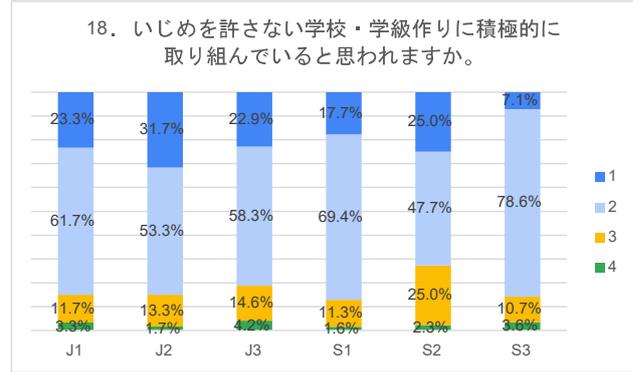
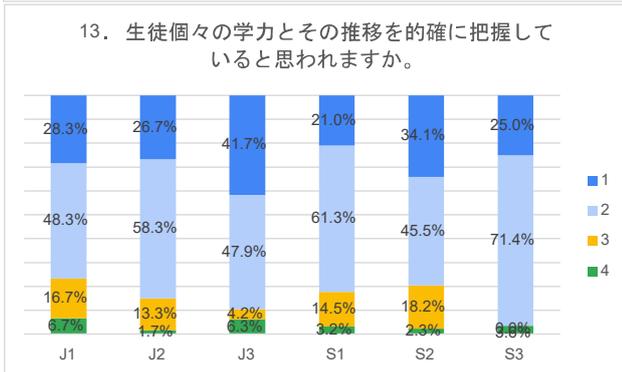
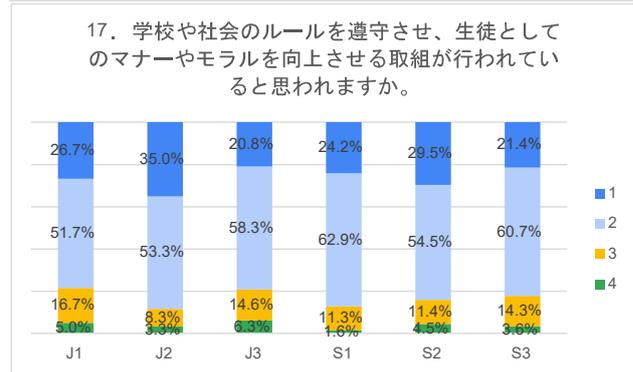
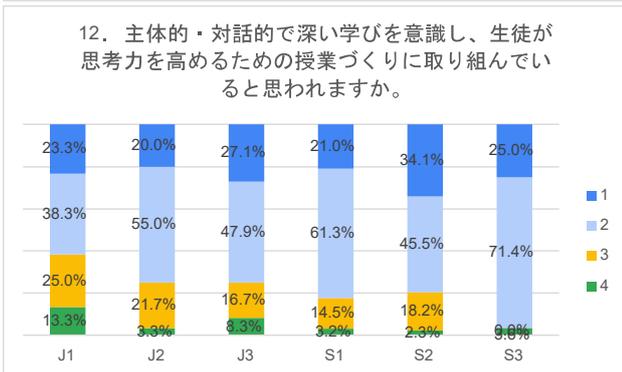
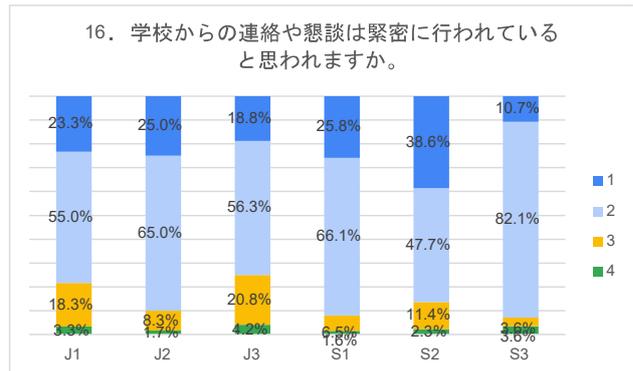
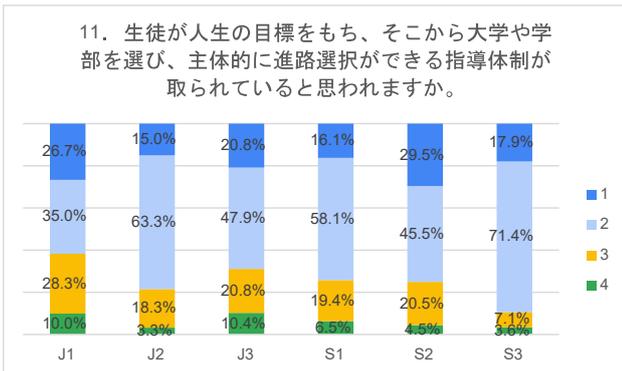
保護者集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



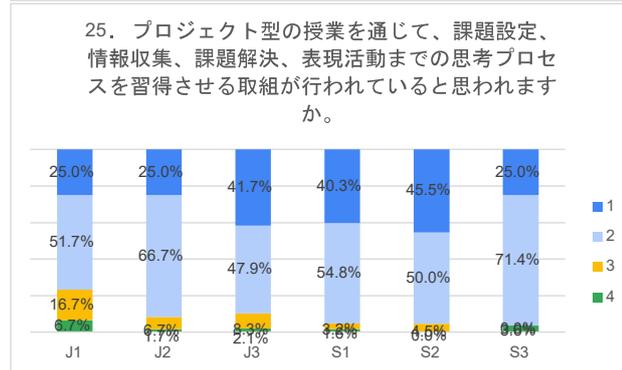
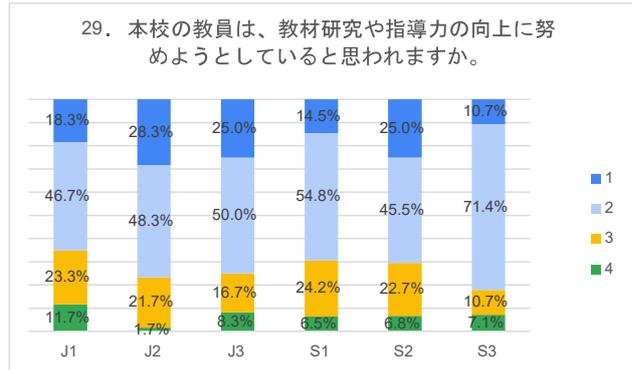
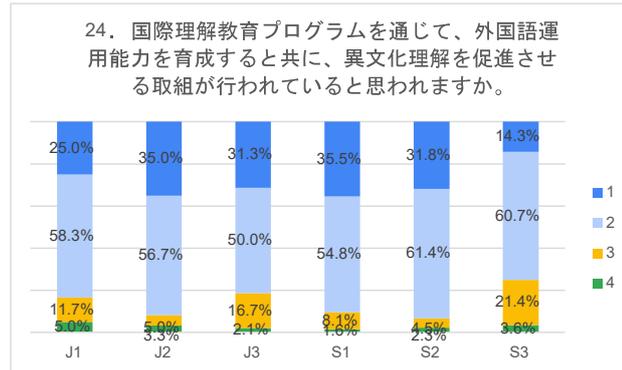
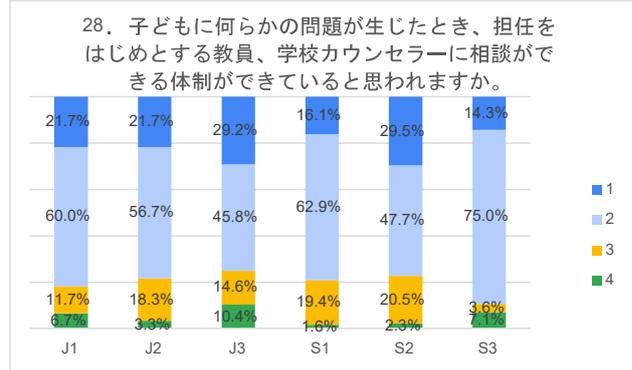
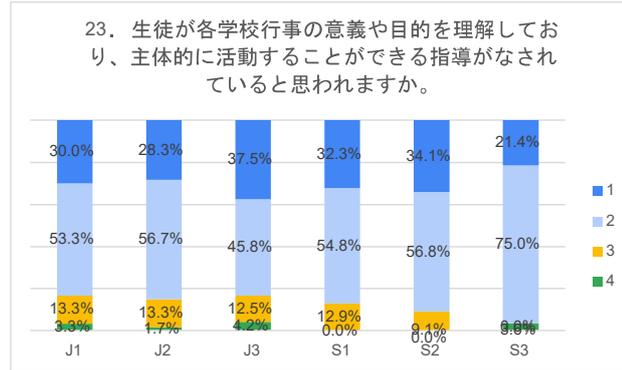
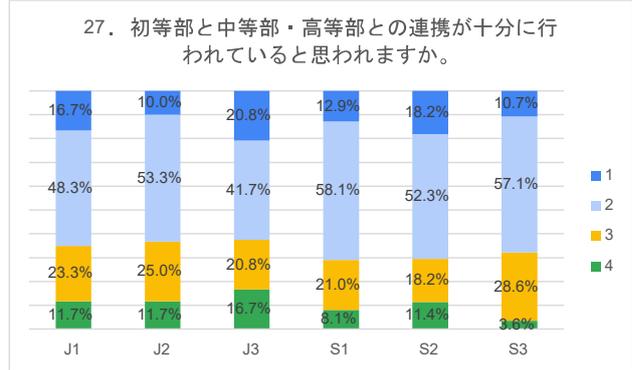
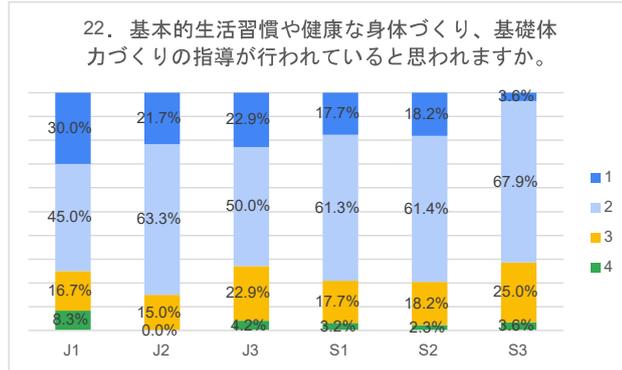
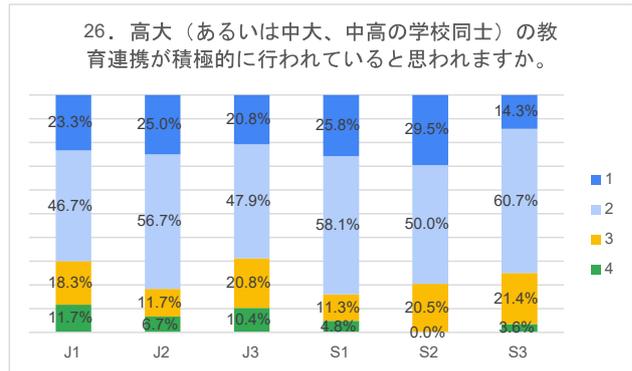
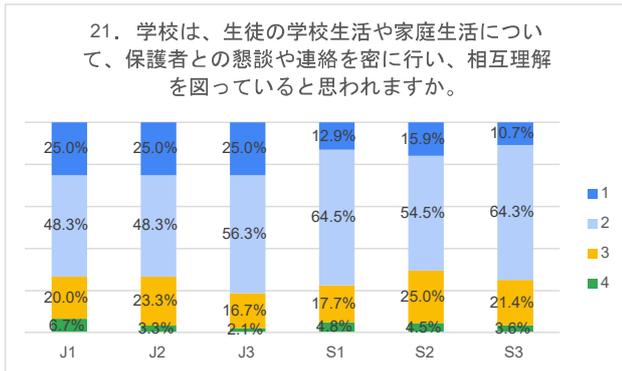
保護者集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



保護者集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない



## 2023年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(教員用)

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない

NO	設問	1	2	3	4
1	1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	30.2%	58.1%	9.3%	2.3%
2	2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	14.0%	72.1%	9.3%	4.7%
3	3. 建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	16.3%	48.8%	25.6%	9.3%
4	4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	25.6%	53.5%	14.0%	7.0%
5	5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	18.6%	51.2%	25.6%	4.7%
6	6. 管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	44.2%	34.9%	14.0%	7.0%
7	7. 教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	55.8%	39.5%	2.3%	2.3%
8	8. ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。	27.9%	58.1%	9.3%	4.7%
9	9. 警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	34.9%	48.8%	9.3%	7.0%
10	10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	14.0%	51.2%	32.6%	2.3%
11	11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	25.6%	62.8%	9.3%	2.3%
12	12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。	11.9%	52.4%	26.2%	9.5%
13	13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。	16.3%	39.5%	34.9%	9.3%
14	14. 生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。	16.3%	53.5%	20.9%	9.3%
15	15. 主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。	23.3%	46.5%	23.3%	7.0%
16	16. 定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。	33.3%	57.1%	7.1%	2.4%
17	17. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。	30.2%	55.8%	11.6%	2.3%
18	18. 学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。(共通項目)	20.9%	46.5%	20.9%	11.6%
19	19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	37.2%	51.2%	9.3%	2.3%
20	20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	16.3%	53.5%	23.3%	7.0%
21	21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	39.5%	48.8%	9.3%	2.3%
22	22. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。	9.5%	57.1%	21.4%	11.9%
23	23. 授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われている。	34.9%	51.2%	11.6%	2.3%
24	24. 生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。	37.2%	51.2%	9.3%	2.3%
25	25. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	11.6%	60.5%	20.9%	7.0%
26	26. 生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。	32.6%	48.8%	14.0%	4.7%
27	27. 国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。	30.2%	58.1%	9.3%	2.3%
28	28. プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。	34.9%	48.8%	11.6%	4.7%
29	29. 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	14.0%	62.8%	18.6%	4.7%
30	30. 初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。	7.0%	55.8%	32.6%	4.7%
31	31. 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	39.5%	41.9%	11.6%	7.0%
32	32. 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	16.3%	46.5%	20.9%	16.3%
33	33. 授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。	11.6%	51.2%	27.9%	9.3%

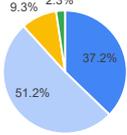
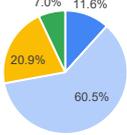
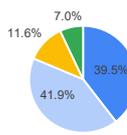
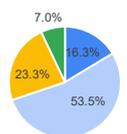
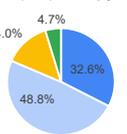
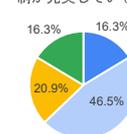
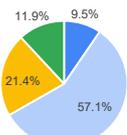
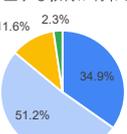
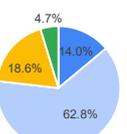
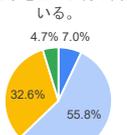
教員集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない

<p>1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>7. 教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>8. ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>14. 生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>3. 建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>9. 警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>15. 主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>16. 定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>17. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>6. 管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>18. 学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。(共通項目)</p> <p>① ② ③ ④</p>

教員集計

[ 1 ] そう思う [ 2 ] どちらかと言えばそう思う [ 3 ] どちらかと言えばそう思わない [ 4 ] そう思わない

<p>19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>25. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>31. 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>
<p>20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>26. 生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>32. 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>
<p>21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>27. 国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>33. 授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>
<p>22. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>28. プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	
<p>23. 授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>29. 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	
<p>24. 生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	<p>30. 初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。</p>  <p>■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④</p>	